表す 感じる

かほく防災記者 リポート

仙台・福住町町内会の防火・防災訓練に参加

東日本大震災の教訓や災害への備えを学び、発信するかほく防災記者4期生で仙台市田子中2年の桑田歩佳さん(14)が11月9日、自宅のある同市宮城野区福住町町内会の第23回防火・防災訓練に参加した。同級生らに記者研修で執筆した記事の説明をしたほか、参加者に水害時の土のうの活用を呼びかけた。

訓練は福住町公園で行われ、地元の高砂小、田子中の児童生徒をはじめ、町内会、民間団体、自治体の関係者約400人が参加した。23のブースが設置され、災害時に役立つ車両や防災の取り組みを展示した。

河北新報社のブースでは、桑田さんが福住町で起きた水害や、家族と一緒に取り組んだ避難訓練について書いた記事を掲示。出展者の発表タイムで、桑田さんは住宅への水の浸入を防ぐ土のうが、市民センターでもらえることを伝えた。

桑田さんが監修した「防災ミニブック」を作成するワークショップも行った。児童らは「公衆電話は災害時優先電話」「揺れたら低い姿勢で頭を守ろう」など7種類の防災イラストが印刷されたA4の用紙を折って、小冊子を完成させた。

上土のうの活用を呼びかける桑田さん　右防災イラストが印刷されたA4の紙を折って、防災ミニブックを作る児童たち

浸水防止に土のう活用

仙台市田子中2年　桑田歩佳さん

私は、かほく防災記者第4期の研修で、福住町で起きた水害について取材し、記事を書いた。

福住町は梅田川と七北田川が近くを流れていて、大雨になると氾濫の危険がある。1986年8月の8・5豪雨では、町内の全ての家が床上か床下まで水に漬かったという。小学2年生だった2019年10月の台風19号豪雨でも、住宅の浸水の被害が出た。

今年10月1日、仙台市は局地的な大雨に見舞われた。雨雲の位置が少しずれていたら、福住町も危なかったと思う。大雨のとき、住宅の被害を少しでも減らすには、家の中に水が入るのを防ぐことが大切だ。

玄関からの水の浸入防止に、役立つのが「土のう」。土のうをれんがのように並べて積み上げ、その上からブルーシートなどで包むと、より効果的に水をせき止めることができる。

仙台市では、水害対策として「土のう」の無料配布を行っている。この地域では、高砂と田子の市民センターに「土のうステーション」があり、一人10個まで、24時間いつでも受け取ることができる。

大雨で浸水が心配なときは、「土のうステーション」を思い出して活用してほしい。いざというときに早め早めの行動ができるように、日ごろから備えておくことが、自分の家と家族を守ることにつながる。

学力UP↑のカギは国語力!!

河北新報のコラム「河北春秋」を活用した学習法をご紹介。ベテラン記者が執筆した文章を読むことで、豊かな言葉や表現が身につきます。また旬の話題や時事問題にも強くなります。

新聞を活用して差をつけよう！

河北春秋 3ステップ

STEP1 基礎力アップ
書き写す
「河北春秋」の文字数は約500字。書き写すことで、**作文力**や**読解力**、**漢字力**といった**「国語力」が向上**します。また、分からない単語を調べると**語彙力もアップ**します。

STEP2 論説文対策
100字で要約する
「河北春秋」の要約は**論説文対策**にピッタリ。読み解いて分かりやすく伝える文章の練習になります。

STEP3 小説問題対策
自分の意見や感想を書く
自分の考えを**50字以内**で書きましょう。小説問題は文章の行間を読み、自分の考えを制限字数内で簡潔にまとめる練習が役立ちます。

「河北春秋」はここ！

チョイ読みで時事力UP↑
入試では、新聞記事を使った出題が増加傾向。新聞をめくり「見出しだけ」チェックしましょう。世の中の動きを効率よく知ることができます。

まずは1週間お試しください
ご希望の方に、「河北春秋書き写し1週間お試し版」をお届けします。また、河北新報をお読みでない場合は、新聞も1週間お届けします。右の二次元コードよりお申し込みください。

●ご購読のお申し込みは…
フリーダイヤル 0120-09-3746（オーク ミナヨム）受付／7:00～19:00

お問い合わせ／河北新報社　販売部（平日10:00～17:00）
TEL.022-211-1302　FAX.022-211-1188
※お申込みいただきました個人情報は、弊社と河北新報販売店で適切に管理し、商品の発送、各種ご連絡・ご案内に利用させていただきます。河北新報社のプライバシーポリシー（個人情報保護方針）https://np.kahoku.co.jp/privacy.htmlをご確認ください。